

主なる神様は、モーセの後継者としてヨシュアを立てて、約束の地カナンにイスラエルの民を導いた。ヨシュアはモーセが民を導くために労苦して来たことを見ていたので、モーセの後を継ぐことがどんなに大変で、責任が重いのかよく分かっていた。

*ヨシュアへの主の励まし

主なる神様は、新たな指導者ヨシュアに何度も語り掛けている。「強くあれ。雄々しくあれ。」(6節、7節、9節) この励ましは、単にカナンに居る先住民を追い出すために頑張るように命じているのではない。

7~8節「ただ強くあれ。雄々しくあれ。わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法のすべてを守り行うためである。これを離れて、右にも左にもそれではならない。あなたが行くところどこでも、あなたが栄えるためである。このみおしえの書をあなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさめ。そのうちに記されていることすべてを守り行うためである。そのとき、あなたは自分がすることで繁栄し、そのとき、あなたは栄えるからである。」

これは、御ことばに忠実であることにおいて、強くあってほしいという意味である。「強くあれ」とは「勇気を持って」「しっかりしろ」という意味もある。また「雄々しくあれ」とは「奮い立て」という意味がある。これは現実的に様々な不安や恐れ、またどんな状況があったとしても、主の教えをしっかりと守り行うようにとの励しなのだ。そうしたら、大いに栄えて、祝福を受けて繁栄することできるという約束がある。さらに、主が、ともにおられるから、勇気を持って、恐れることなく、奮い立って、前進するように、繰り返し励ましている。(9節)

*私たちが主の励ましを受けて

かつて、主がヨシュアを何度も励まして、「強くあれ、雄々しくあれ」と語ったように、私たちが今日、主の励ましを受けて、右にも左にも反れることなく、主の約束と報いを信じて、前進して行く者でありたい。

私たちは、主イエス様を信じ、永遠のいのちの約束を得ている。その約束を信じ、主の御ことばに立ち、主が共におられることを信じ切ることにおいて、強く、勇敢であり続けたい。また私たちの教会に与えられている福音宣教の使命、主を信じて救われる人々が起こされるという約束と希望は、世代が変わっても引き継がれていく。この地にあって、また遣わされているそれぞれの持ち場にあって、強く、勇気を持って、主の証し人として歩みたい。